

別冊

おいしいだものがたり

～資料館資料編～ ■「大石田雛人形展」より

資料館で開催している「大石田雛人形展」には江戸時代の享保雛が複数展示されています。江戸期の雛人形の中でも古い様式を持つ享保雛ですが、それ以前の時期に作られ、おそらく町内に残る雛人形としては最も古いのが今回ご紹介する「元禄雛」です。



元禄雛は「古式享保雛」と呼称されることもあり、基本的なフォームは享保雛と似通っています。卵型の頭部、金欄緞子の裂が用いられた着衣、十二単風の打掛や綿を入れて膨らませた袴など、享保雛に顕著な特徴は既に元禄雛に表れています。一方男雛が両腕を左右に広げるポーズは、後の雛には見られなくなるものですが、これはひな祭り行事のルーツともいえる「流し雛」が典拠だと考えられています。はじめ川へ流す紙製の形代だった流し雛は、素材に裂を用いた「立雛」人形へと変化していきました。そして上半身はそのままに下半身が座姿になったのが元禄雛というわけです。このことは立雛から座雛へ移行したごく初期の段階に位置するのが元禄雛であり、現在まで続く座雛の源流につながる存在であることを示しています。



さらに享保雛や古今雛と比較してみましょう。享保雛以降、頭部には植毛がなされるようになりますが、元禄雛では毛髪部を黒く塗ることで済ませています。その頭部に男雛は烏帽子を付け、女雛には宝冠がありません。これは紛失してしまったのではなく、はじめから無かったものです。というのも、男雛の烏帽子が着脱可能な付属部品ではなく頭部と一体になって成形されていることから、女雛も元から宝冠なしで制作されていると想定できるのです。また、享保雛や古今雛ではまぶたを立体的に盛り上げ、さらに眼球部を彫り込んだ中に瞳を描き入れるという技巧が施されるのに対し、元禄雛では平面に直接まぶたと瞳を描くため凹凸の無い扁平な仕上がりとなっています。

その他にも全般的に小作りで衣装が細部までは作り込まれないなど、享保雛・古今雛に比べて元禄雛は簡易的ですが、このようなゆるさや柔らかさが、元禄雛特有の素朴な可愛らしさにつながっているともいえます。それはまた、雛人形が鑑賞目的の工芸となっていく以前の子どもの遊びの「お人形」としての性格を残しているからなのかもしれません。このように元禄雛は、雛人形がその文化とともに発展していく過渡期の様相を示す貴重な資料なのです。

【4月2日(日)に和琴演奏会を開催します】

- ◆日時 / 4月2日(日) ①午前11時～ ②午前11時30分～
- ◆曲目 / うれしいひなまつり など ◆出演 / 琴音サークル
- ※4月2日(日)は資料館入館無料です。ぜひお越しください。

「大石田雛人形展」は
4月2日(日)まで



◇編集・発行 大石田町総務課

〒999-4112

山形県北村山郡大石田町緑町1番地

☎ 0237-35-2111

FAX 0237-35-2118

◇印刷 / 大場印刷株式会社

「広報おおいだ」の文字書体は誰にでも読みやすいユニバーサル書体を使用しています。

大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報などを
受け取ることができます。

友だち登録を
お願いします！



登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和5年3月1日現在

世帯数	2,246戸	(+1)
総人口	6,301人	(-13)
男	3,135人	(-5)
女	3,166人	(-8)

(2月中の異動)

出生	0人	転入	10人
死亡	13人	転出	10人

※この人数は外国人も含めたものです。